萩ジオパーク
推進協議会だより vol.140

萩ジオパーク推進協議会
｜2026年10月31日発行｜

〒758-0041
山口県萩市大字江向602　萩・明倫学舎本館2階
0838-21-7765　0838-25-7767
geo@city.hagi.lg.jp
https://hagi-geopark.jp
https://www.facebook.com/HagiGeoProject
@hagi_geopark

笠山山頂展望台『鳶ノ巣』でイベントを開催しました

「萩の大地の恵みでつくるオリジナルハーブティーづくり体験」



10月３日（土）、萩産の植物を使って自分だけのオリジナルハーブティーをつくる体験イベントを行いました。

参加者の方は、ハーブに笠山でとれたビワの葉や柑橘類、そして目の前の海でとれたワカメなどの素材をブレンドし、自分の好みのハーブティーを作られていました。

今回協力いただいたのは、これまで鳶ノ巣カフェの限定メニューなどでもご協力いただいている、地元笠山のTotGarden（トットガーデン）さんです。今後もこういった萩ジオパークパートナーの方と一緒になって、鳶ノ巣を活用した取り組みを行っていきたいと思います。

「鳶の目線で楽しむヨガ」



10月18日（日）、笠山から望む海と島々の景色を「鳶の視点」で眺めながらヨガを行う、初めてのイベントを行いました！

参加者の方がヨガを通じて、景色を眺めながら心と体を整え、景色の裏にある大地の物語を感じることが出来ればという想いから企画したイベントです。参加者の中には普段笠山山頂に来られない方もいて、いつもとは違う山頂からのすばらしい景色をご覧になりながらヨガを楽しんでいらっしゃいました。

今後も色々な分野の方とのつながりを持ちながら、多くの方に萩ジオパークの取組みに共感いただけたらと思っています。

大井中学校ふるさと学習（9月14日）



１年生が特産のタマネギを調べる中で、大地の特徴との関係も考えたいと依頼をいただき、一緒に大井を歩きました。たまねぎ生産が始まった約60年前の地形図を見ながら、今とちがうところは何かを探してもらいました。道路や建物だけでなく、大井川の流路そのものが違っていました。大井は川が氾濫をくり返し、流れる場所を変えながらできた平野で、そこに人が手を加えて今の姿があります。ほかの産地の地形図とも比べ、広さは違ってもどこも川がつくった水はけの良い土地だということも分かりました。

多磨・小川・育英小学校
江崎漁港で地元の産業・自然リサーチ
（9月25日）





萩市田万川総合事務所の主催で、須佐総合事務所、水産課、萩博物館、ジオパーク推進協議会がコラボし、江崎漁港で小学生向けの授業を行いました。３つの小学校の３・４年生22名が参加しました。

白井専門員が地形模型を使い、目前の海や山と見比べながらこの地域の大地の成り立ちを解説しました。江崎定置網が地形を生かした絶好の場所に仕掛けられていること、すぐ水揚げできる穏やかな入江の漁港が近くにあってこそ成り立っていることに、児童たちも感心した様子でした。入港した定置網漁船のクレーンで吊られた１メートル級のバショウカジキやシイラ、サワラ、アジ、サバなど大漁の水揚げに歓声が上がりました。身近な土地や海の成り立ちが、地域の漁業や暮らしと深く結びついていることを実感する機会となりました。こうした発見が、子ども達が郷土の自然や産業に関心をもち、その将来を考えるきっかけになればと思います。

須佐中学校ふるさと学習（９月30日、10月１日）





１日目は、弥富地区の「龍が通った道」を案内。まずはイラオ火山灰層観察施設を見学しました。イラオ火山灰層観察施設は噴火の歴史を物語る火山灰の地層を間近で観察することができる施設です。イラオ山の噴火を再現した実験を現地で行ってから、流れ出た溶岩流の痕跡をたどりながら、畳ヶ淵を訪れ、最後に溶岩が流れ着いた最終地点である上の原へ向かいました。たどった道のところどころで溶岩を見ることができ、生徒の皆さんも興味深く見学していました。

２日目は、須佐地域を案内。まずは海苔石海岸に向かい、そこで足下に広がる砂岩を観察し、生き物の痕跡（巣穴の化石など）を見つけてもらいました。次に人が手を加えた痕跡を探しました。海苔石海岸には、砂岩を切り出した矢跡が残っています。その後須佐の町に移動して、海苔石海岸から切り出した石がどこで使われているのか探しました。町のあちらこちらに使われていることを見つけ出し、切り出された石が、人の生活を足下から支えていることに気づき、大地と人のつながりを感じてもらえたのではないでしょうか。

萩明倫館高校スクーリング対応（10月６日）



通信制の萩明倫館高校から、昨年に引き続き今年もご依頼をいただきました。普段は別々の地域で通信により授業を受けている生徒さんたちが、年に１回萩に集まるスクーリングです。理科の授業の一環として、ジオガイドが須佐ホルンフェルスをご案内し、地層の成り立ちや大地と人々の暮らしの関係を、実験や実物の観察を通して体験的に学んでもらいました。生徒さんからも先生からも「こんな景色は初めて！」と歓声が上がり、大いに盛り上がりました。

野田学園高等部ワーキングキャンプ（10月14日～15日）







山口市の野田学園高等部未来創造コースの１年生約140人が、阿武町のABUキャンプフィールドで行ったワーキングキャンプ後、水産・林業・農業・畜産の４チームに分かれて仕事体験をしました。水産はジオパーク活動者の福本真司さん（福本商店）が担当し、ジオパーク推進協議会も協力。福本さんは、磯焼けの一因といわれるウニが禁漁期の秋にどんな状態かを調べています。午前は生徒15～18名が、ウニ50個体の大きさ・重さ・身入りを調査。集計では、予想通り身入りがごく少ないという結果になりました。午後は、秋に採取した後３週間ほどエサを与えて畜養したウニで「板ウニ」づくりに挑戦。こちらは身入りがあり、りっぱな板ウニができました。地域の漁業者が抱いた疑問を、高校生も一緒になって調べ、考える今回の取組。こうした探究の積み重ねが、海の仕組みや変化に向き合い、これからの漁業のあり方を考えることにつながっていくことでしょう。

多磨小学校PTA企画対応（10月16日）

萩市立多磨小学校の３・４年生を対象に、PTAが企画する親子体験のお手伝いをしました。地形図に示された地点をめぐり、写真と同じ景色を探す「町ぶらクエスト」です。歴史ある港町の細い路地を探検しながら、親子で力を合わせてゴールを目指しました。はじめは地図の見方が分からない様子でしたが、ほとんどの組がすべてのお題をクリアしました。お母さんたちからは「景色を見つけたときは興奮した」「地図を見る機会はないけれど大事だと思った」との声もいただきました。

大島・ジオパーク講演会（９月 30 日）



萩市の大島で公民館主催の講演会を行いました。暮らす土地の成り立ちを地元の皆さんに知ってほしい、というご依頼です。

まずは地形図をバラバラにしたパズルに取り組んでもらい、大島の地形の特徴に目を向けてもらいました。大島は笠山などと兄弟にあたる火山です。平らな地形ができる様子を火山実験で見てもらい、島で盛んな農業や漁業との関係もお話ししました。「分かりやすくて面白かった」「不思議に思っていたことが分かってすっきりした」という声をいただきました。

第２回 活動交流会を実施しました（9月29日）

萩・明倫学舎で活動交流会を開催し、パートナー・サポーター 11 団体 16 名が参加しました。２回目となる今回は、参加者がそれぞれの活動の展望や課題、今後ほかの参加者と一緒に取り組みたいことなどを発表する時間を設けました。その中で「萩ジオ商品」の商品化や認定の仕組みづくりについて意見が交わされました。何を未来に残したいかという視点から商品を考えることや、季節や旬を価値につなげること、商品と体験・交流を一体的に捉えることなど、さまざまなアイデアが共有されました。

今回の交流会は、参加者同士がそれぞれの活動や思いを共有し、新たな連携や今後の取り組みの可能性を考える機会となりました。

西ノ浜に関する講演「大地の視点で考える砂浜のミライ」（10 月 14 日）

護岸工事が計画されている萩市の西ノ浜について、市民の皆さんが理解を深める機会にしたいとのご依頼で、白井専門員が講演しました。大地の視点で眺めると砂浜は絶えず姿を変えており、広がり狭まる背景には人の開発の影響も大きいです。平地も山の斜面も川も崩れないよう固められた今、海へ届く砂はかつてより格段に少ないはずです。砂浜だけを見ていては根本的な解決にならないので、目の前の対処を進めながら、土地への振る舞いを長期的に考えることも大事だとお話ししました。参加者からは「目からウロコだった」という声を多くいただきました。



日本ジオパーク再認定審査 現地調査

平成30年に日本ジオパークに加盟認定された萩ジオパークは、令和４年に続き、今年度に２回目の再認定審査を迎えます。事務局から過去４年間の活動や成果、課題をまとめた書類を提出し、10月31日（土）～11月３日（火・祝）に調査員が現地調査に訪れます。調査員は、福井大学講師の柴田伊廣さん、新潟県立歴史博物館専門研究員の橋詰潤さんです。笠山をはじめ、阿武町、山口市阿東地域を回り、関係者へのヒアリングや現地視察を通じ、成果と課題、改善への取組を確認されます。

今回の現地調査は、これまでの活動を振り返ると共に、地域の人々が主体となって学び、考え、実践するジオパーク活動を今後さらに広げていくための大切な機会でもあります。現地調査や再認定審査全体の結果については、改めてお知らせします。

11月～12月上旬の予定

※本紙の編集時点で協議会事務局が把握している情報のうち、協議会主催・共催の行事やジオパークの運営・推進に関わる公的な会議・取組等を中心に掲載しています。

〇日本ジオパークネットワーク中四国近畿ブロック研修会in隠岐　11月５日（木）～６日（金）　萩ジオパークを含む中四国近畿ブロックの各地域の担当者や活動者が会し、各地域の学びの実践を共有したり課題について意見交換したりし、実践から得られる知見や工夫を地域間で共有　主催：一般社団法人隠岐ジオパーク推進機構

〇第16回日本ジオパーク全国大会 桜島・錦江湾大会　11月20日（金）～11月21日（土）　場所：宝山ホール、かごしま市民福祉プラザ等　内容：「ド感動ジオパーク」をテーマに全国のジオパーク関係者が一堂に会し、分科会や口頭・ポスター発表等で情報交換、交流。前日には日本ジオパークネットワーク全地域事務局長会議、運営会議なども開催　主催：第16回日本ジオパーク全国大会桜島・錦江湾大会実行委員会、一般財団法人自治総合センター

●萩ジオアカデミー　12月19日（土）9:30～12:00　場所：山口県漁協越ヶ浜支店他　内容：風穴の専門家である澤田結基教授（福山市立大学）を講師に迎え、風穴の仕組みや、天然の貯蔵庫として利用されてきた人々の知恵を、講演と現地観察を通じて学ぶ　参加：事前申込要（詳細は萩ジオパーク推進協議会HP参照）　主催：萩ジオパーク推進協議会